



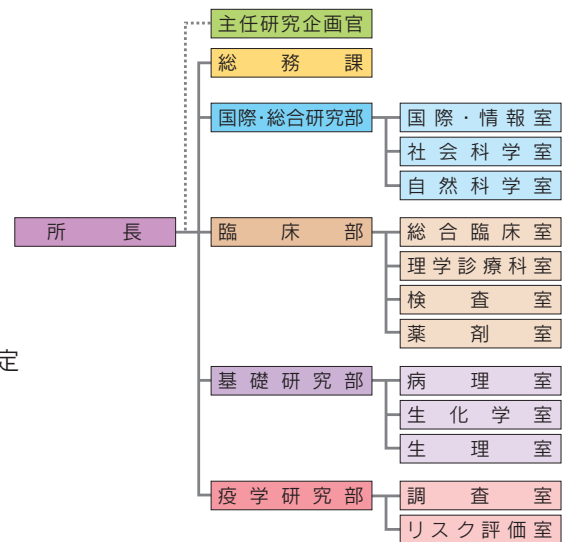
環境省 国立水俣病総合研究センター



沿革・組織

- 昭和31(1956)年 水俣病公式確認
- 昭和40(1965)年 新潟水俣病公式確認
- 昭和43(1968)年 政府統一見解発表
工場排水中のメチル水銀化合物が
水俣病の原因
- 昭和46(1971)年 環境庁発足
- 昭和48(1973)年 三木武夫環境庁長官(当時)が
水俣病研究所設立の談話を発表
- 昭和53(1978)年 国立水俣病研究センター設立
- 昭和61(1986)年 世界保健機関(WHO)研究協力センター指定
- 平成 8(1996)年 国立水俣病総合研究センターに改組
- 平成13(2001)年 環境省発足 水俣病情報センター開館
- 平成18(2006)年 水俣病公式確認50年
- 平成20(2008)年 国水研設立30周年

※国水研:国立水俣病総合研究センター



長期目標及び中期計画

長期目標

我が国の公害の原点といえる水俣病とその原因となったメチル水銀に関する総合的な調査・研究、情報の収集・整理、研究成果や情報の提供を行うことにより、国内外の公害の再発を防止し、被害地域の福祉に貢献すること

中期計画2010

計画期間

平成22年度から平成26年度までの5カ年
(その間、適宜必要に応じて計画を見直します)

重点的に進める調査・研究分野及び業務

- メチル水銀の健康影響に関する調査・研究
- メチル水銀の環境動態に関する調査・研究
- 地域の福祉の向上に貢献する業務
- 国際貢献に資する業務

調査・研究と業務の進め方

■プロジェクト型調査・研究の推進

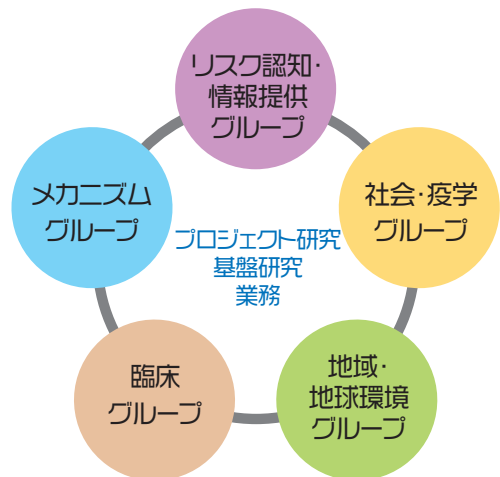
重要研究分野について、国水研の組織横断的なチームによる調査・研究を推進します。

■基盤研究の推進

長期的観点から、国水研の研究能力の向上や研究者の育成を図ります。

■業務

調査・研究とそれに付随する業務の明確化を図り、国水研全体として取り組みます。



調査・研究と業務の体制

プロジェクト型調査・研究、基盤研究、業務をその目的により5つのグループに分類して横断的に調査・研究及び業務を推進します。

これまでの取組

主な研究成果

水銀分析マニュアルの作成

特許取得: 2件

研究発表件数: 264件(学術刊行物及び学術発表における平成17年度～21年度までの実績)

国際貢献

■国際共同研究

水銀研究に携わる外国人研究者を招へいして共同研究を実施(24カ国・126名を招へい)

■国際ワークショップ

水銀に関する環境問題を抱える地域などにおいて情報伝達を目的としてブラジルなど4カ国で4回開催

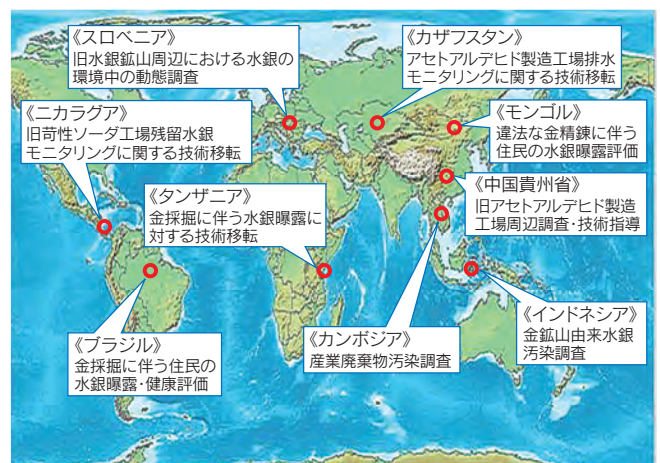
■現地調査

中国・ベトナム・ブラジルなど13カ国において水銀に関する環境問題の現地調査を実施

■海外研修生の受け入れ

JICAなどを通じて海外からの研修生に水銀分析技術などに関する研修を実施(2,116名の研修を実施)

【いずれも平成10年度～21年度までの実績】



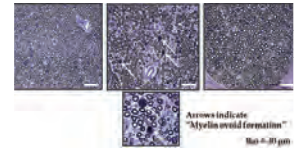
主な地球規模の水銀問題への国立水俣病総合研究センターの協力

研究概要

プロジェクト研究

メチル水銀の選択的細胞傷害及び個体感受性を決定する因子に関する研究

現在までに解明されていないメチル水銀の選択的細胞傷害及び個体感受性を決定する因子について、実験動物を用いて研究を行っています。さらに、その研究成果をメチル水銀中毒の診断、毒性防御及び治療に応用することを目指します。(メカニズムグループ)



メチル水銀曝露によるラット後根神経の変性

水俣病の病態に関する臨床研究—神経症候の客観的評価法の確立を中心に—

水俣病を含むメチル水銀中毒の客観的な診断法の確立を最終目的として、脳磁計(MEG)のメチル水銀中毒の脳機能の客観的評価法としての有用性について検討しています。(臨床グループ)



脳磁計による検査風景

クジラ多食地域におけるメチル水銀曝露に関する研究

捕鯨産業をもつ地域住民のメチル水銀摂取状況を把握した上で、健康影響の評価を行い、クジラ・イルカを含む魚食とメチル水銀摂取に関する正確な情報を提供します。(リスク認知・情報提供グループ)



ラットによる動物実験

水銀の調査・研究拠点化プロジェクト

水銀研究の推進機能、アーカイブ機能、レビュー機能、データベース機能、研修機能などを強化・充実させることにより、水銀研究の拠点化を図り、国内外の水銀研究を振興する役割を果たすための体制の確立を目指します。(リスク認知・情報提供グループ)

基盤研究

1 メカニズムグループ

水銀による生体影響、毒性発現の分子メカニズムを解明し、その成果をメチル水銀中毒の初期病態の把握や毒性評価、毒性発現メカニズムに基づいた障害の防御、修復のための新たな治療法開発へと発展させることを目標としています。

2 臨床グループ

水俣病、特に重篤な胎児性・小児性水俣病患者の治療について検討しています。そのため、胎児性・小児性水俣病の病態に応じた検査・治療を行うとともに、必要に応じて経頭蓋磁気刺激や機能外科による最先端の治療の可能性についても検討します。

3 リスク認知・情報提供グループ

魚食に由来する微量メチル水銀摂取に対する関心が高まっている現状を踏まえ、メチル水銀摂取の現状とそのリスクレベルを正確に認知し、正確かつ的確な情報を発信することを目的としています。



聞き取り調査の様子



保存臍帯の例



大気サンプリングの様子



水俣湾内実験用生簀

4 社会・疫学グループ

地域における水俣病に係わる社会的問題と被害者の生活や健康問題に焦点をあて、その歴史的経緯と背景、現状及び問題点についての研究を行っています。これにより、地域の融和と振興及び医療や福祉の向上に資することを目指しています。また、水俣病問題に関する情報発信にも貢献しています。

5 地域・地球環境グループ

国内外の水銀による環境汚染の拡がりとその影響を研究対象とし、現在、国内では、水俣湾だけでなく周辺の海域も含めた水環境中における水銀の動態とその影響に関する研究や、大気中における水銀の化学形変化とその輸送に関する研究などを実施しています。

業務概要

1 臨床グループ

- 胎児性、小児性を中心とした水俣病患者へのデイケアの形での外来リハビリテーションに加えて、講習会の開催によりリハビリテーション技術、介助技術の地域への普及を目指した情報発信を実施しています。
- 水俣病被害者やその家族に有効な在宅支援活動を地域に根付かせるため「介護予防等在宅支援のための地域社会構築推進事業」を実施しています。
- 健康セミナーを通じてメチル水銀汚染地域住民の健康増進に向けた活動を実施しています。

2 リスク認知・情報提供グループ

- 水俣病情報センターにおいて水俣病に関係する資料の収集を積極的に行い、研究者などの利用に供するとともに、展示室や講堂などを活用した情報発信を実施しています。
- 世界各地の水銀汚染が疑われる地域住民の毛髪水銀量を測定することによって水銀曝露状況を把握し、健康被害の未然防止を図ります。
- 水俣病に関する病理標本などの永久保存を実施しています。

3 地域・地球環境グループ

- 発展途上国を中心に研究者の現地への派遣、外国人研究者の招へいなどにより、在外研究機関との共同研究を実施しています。JICA等を通じた水銀分析技術の習得などを目的とした研修を実施しています。
- 水俣に国内外の水銀研究者を招へいし、国水研の研究成果を始めとした水銀研究成果の発信及び研究者間の意見交換の場として国際フォーラム(NIMDフォーラム)を毎年1回程度開催しています。
- 水銀問題を抱えた発展途上国などにおいて、ワークショップ開催により水銀研究の普及と現地研究者とのネットワークを形成するとともに、国際水銀会議の開催年にはサテライトとしてワークショップを開催して国際水銀会議をサポートしています。



外来リハビリテーション



リハビリ用ゲーム機を用いた介護予防事業



NIMDフォーラム



国際水銀会議ワークショップ



国際水銀会議 国水研ブース開設

水俣病情報センター

国立水俣病総合研究センターの附属施設として平成13年に設置され、以下の機能を有し、水俣病についての一層の理解の促進、水俣病の教訓の伝達、水俣病及び水銀に関する研究の発展への貢献を目指しています。

- 水俣病に関する資料、情報を一元的に収集、保管、整理し、広く提供するとともに、水俣病に関する研究を実施する機能
- 展示や講堂の利用を通じて市民や研究者に広く情報を提供する機能
- 水俣病に関する学術交流等を行うための会議を開催する機能



水俣病情報センター



水銀と水俣病に関する展示資料

環境省



国立水俣病総合研究センター

〒867-0008 熊本県水俣市浜4058-18
TEL.0966-63-3111 FAX.0966-61-1145
<http://www.nimd.go.jp/>

水俣病情報センター

〒867-0055 熊本県水俣市明神町55-10
TEL.0966-69-2400 FAX.0966-62-8010
<http://www.nimd.go.jp/archives/>

